

重症急性呼吸器症候群(SARS)の診断及び検査手法等に関する緊急調査研究

1. 背景

重症急性呼吸器症候群(SARS)については、世界各国から集団感染の発生が報告されており、現代の国際交流活動を考慮すれば、水際で懸命なる防疫が実施されているとはいえ、今後、我が国においても感染者が発生する可能性を想定して緊急に対応することが必要である。

しかしながら現段階では、確立された診断法や予防法はなく、これらの開発は国際的にも喫緊の課題であり、我が国としても早急に取り組む必要がある。

2. 研究の内容及び実施体制

(1)ゲノム疫学研究

○ SARSゲノム情報の適切な臨床診断への適用により、臨床医のSARSの診断を容易にし、またゲノム情報に基づく疫学調査を行い感染拡大防止策を確立する。

○ 実施体制：国立国際医療センター、国立感染症研究所

(2)SARSウイルスの検査法及びウイルス性気道感染症の鑑別診断法の開発

○ SARSウイルス感染の感染初期及び回復期等における迅速かつ正確な検査法の開発を行う。また、遺伝子解析技術を用いてウイルス性気道感染症の鋭敏かつ迅速な鑑別診断法を開発する。

○ 実施体制：東京大学医科学研究所、国立感染症研究所

(3)SARSウイルスに対するワクチンの研究

○ 感染の拡大防止のために効果的なSARSウイルスワクチンの迅速な開発のための研究基盤を確立する。

○ 実施体制：国立感染症研究所、国立精神・神経センター、国立療養所近畿中央病院、独立行政法人農業技術研究機構動物衛生研究所

3. 所要経費

100,000 千円程度

4. 科学技術振興調整費で対応する必要性

重症急性呼吸器症候群(SARS)を克服するためには、予防、検査手法、治療法等の総合的な研究を推進し、かつそれを速やかに科学技術政策に反映させることが肝要である。当該研究は、その基盤的研究ともいふべきもので、今後のSARSに関する科学技術政策の先鞭となるものであり、かつ機動的に取り組むべきものであること、また厚生労働省だけでなく、農林水産省が有する動物コロナウイルスに関する知見を活用する等各府省庁・関係機関が情報の共有化や連携体制の強化を図る等一体となって取り組むべきものであることから、科学技術振興調整費により緊急に対応する必要がある。

重症急性呼吸器症候群(SARS)の診断及び検査手法等に関する緊急調査研究

背景

海外におけるSARS多発
迅速診断法なし
現在治療法なし



日本での患者発生の可能性

研究開発



期待される効果

・国民のSARSに対する不安の解消
・患者の早期発見

↓

有効な予防・診断法の開発

ゲノム疫学研究
○SARSゲノム情報の適切な臨床診断への適用により、臨床医のSARSの診断を容易にし、また、ゲノム情報に基づく疫学調査を行い感染拡大防止策を確立する。

国立国際医療センター

感染研

SARSウイルス検査法及び鑑別診断法の開発
①迅速かつ正確な検査法を開発する。
②ウイルス性気道感染症鑑別診断法を開発する。

感染研

東大医科研

SARSウイルスに対するワクチンの研究
○拡大防止に最も効果的であるワクチンの迅速な開発のための研究基盤を確立する。

感染研

国立精神・神経センター

国立療養所 近畿中央病院

動物衛生研究所